

うえ の きり はた やま
上 野 切 畑 山 遺 跡

日田市文化財調査報告書

第6集

1992年3月

日田市教育委員会

う え の き り は た や ま
上 野 切 畑 山 遺 跡

日田市文化財調査報告書

第 6 集

1992年3月

日 田 市 教 育 委 員 会

序 文

遺跡のあります上野台地は、古くから甕棺墓や石棺墓が発見された場所として知られておりました。昨年の建設省210号線バイパスの発掘調査では奈良時代の集落の跡が確認され文字を刻んだ石製品の出土で一躍脚光を浴びるところとなりました。

今回調査を行いました切畑山地区におきましても、奈良時代や中世の遺構や遺物が発見され、この台地上での人々の生活の営みの一端を垣間見ることができました。

今後このような発掘調査の成果が、郷土の歴史研究の一助となり、より一層の文化財の保護、保存の充実に役立っていきますことを祈念いたします。なお最後に調査にあたって多大なご協力をいただきました市土木課、地元関係者、作業にあられた皆様方に深甚の謝意を表します。

平成4年3月

日田市教育委員会

教 育 長 檀 原 芳 彦

例 言

- 1、本書は、市道切畑美濃線道路改良工事に伴って、平成3年6月26日から平成3年7月12日まで発掘調査を実施した上野切畑山遺跡の報告書である。
- 2、発掘調査は日田市教育委員会が実施し、行時が担当した。
- 3、現地実測図、写真は主に行時が行った。
- 4、遺物の実測・トレース・写真撮影は行時が行った。
- 5、本書の執筆、編集は行時と土居が協議し、行時が行った。
- 6、挿図の方位はすべて真北を表している。
- 7、出土遺物、作製原図は日田市文化財資料室に収蔵、保管している。
- 8、本書を作製するにあたっては、大分県文化課田中裕介氏より多大なる御教示、御協力をいただいた。

本文目次

1. 調査に至る経過	1
2. 地理的歴史的環境	5
3. 調査の内容	7
(1) 調査の概要	7
(2) A区の調査	7
(3) B区の調査	9
4. まとめ	12

挿図目次

第1図 上野切畑山遺跡発掘調査位置図 (1/2,500)	2
第2図 日田盆地の主要遺跡分布図	3
第3図 上野切畑山遺跡調査区全体図 (1/600)	6
第4図 A区1号溝 (1/100)	8
第5図 B区トレンチ平面図・断面図 (1/100)	10
第6図 B区2トレンチ2号溝出土遺物 (1/3)	11
第7図 上野切畑山遺跡と 上野第一遺跡位置図 (1/2,500)	13

写真図版目次

図版1 A区発掘調査作業風景	
図版2 A区1号溝北より	
図版3 A区1号溝南より	
図版4 B区作業風景	
図版5 B区全景	
図版6 B区1トレンチ完掘写真	
図版7 B区2トレンチ完掘写真	
図版8 2号溝出土遺物	

1 調査に至る経過

日田盆地南部の上野台地は、これまで^(註1)甕棺墓の発見や平成2年度の国道210号線バイパス建設に伴う発掘調査が実施された、市内でも比較的遺跡の内容が知られている台地の1つである。

ところが、平成3年5月、博物館職員が市内の遺跡を分布調査中に、この上野台地上で市道切畑美濃線道路改良工事に先立つ水路建設工事が行われていたが、その掘削による埋土の中に須恵器等の遺物が混入していることを発見した。このため同工事予定地が周知の遺跡内に属し、遺物も確認されたため遺構の存在する可能性があるかと判断し、市教育委員会と市土木課との間で遺跡の取扱いについての協議を行った。協議の結果、工事における床掘が1m以上にのぼるため、遺跡の保存が困難であることから記録保存による緊急の発掘調査を実施することとなった。

なお、遺跡名については上野第1^(註2)遺跡として報告されている範囲内に属しているが、調査地区を適切に判断できるように小字名をとって上野切畑山遺跡と呼称することにした。

発掘調査に関する調査組織は次の通りである。

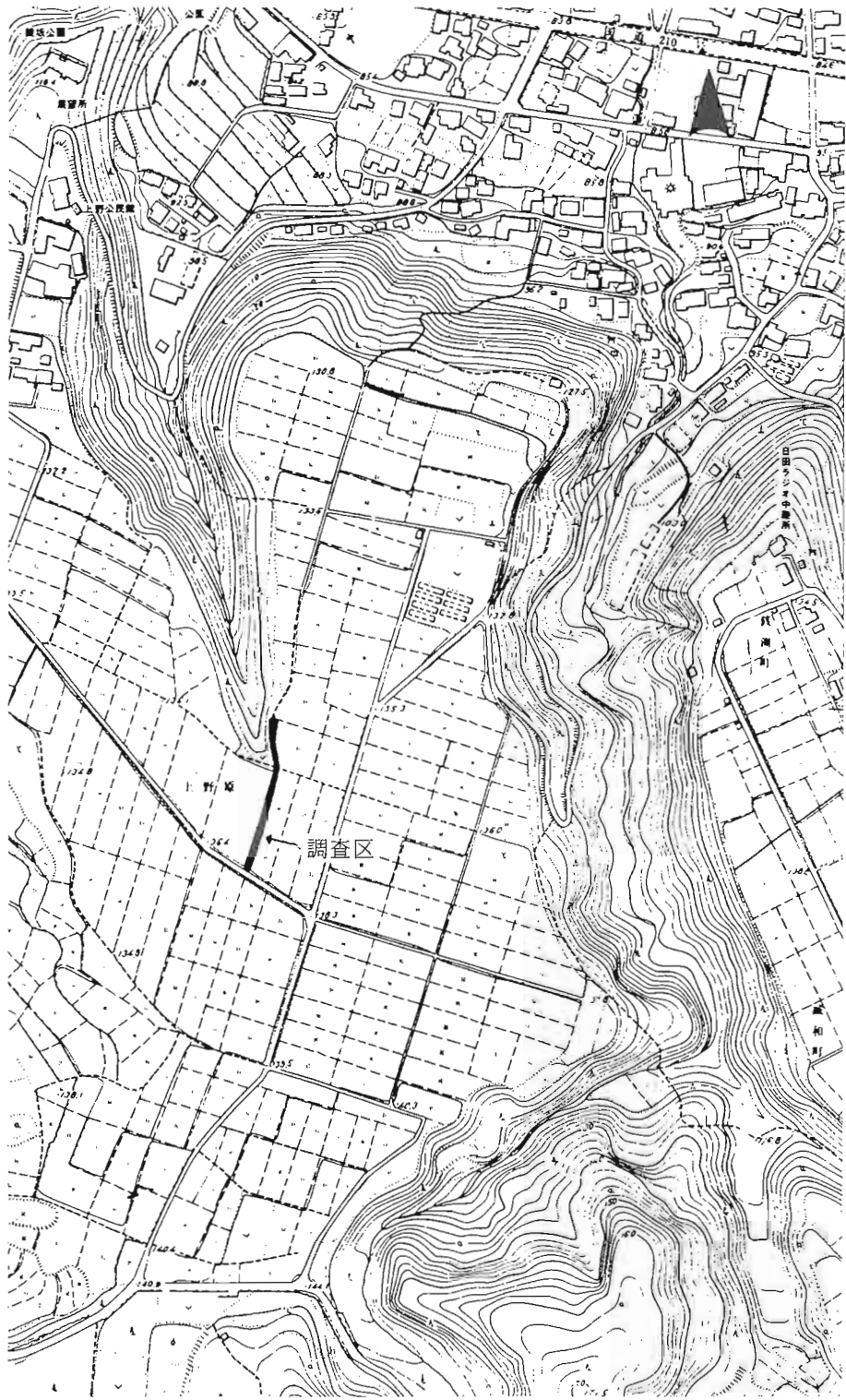
調査団の構成

調査主体	日田市教育委員会
調査総括	日田市教育長 榎原 芳彦
調査事務	日田市立博物館館長 重石 巧
	“ 主 任 小埜サダ子
調査員	“ 学芸員 土居 和幸
	“ 学芸員 行時 志郎
	“ 嘱 託 森山敬一郎

なお、調査および整理にあたっては、江田美代子、梅木鈴子、益永勇、原田友枝、原田国介、木下直、財津朱美、田中静香、末政圭子氏らの協力をいただいた。また地元では桑野武夫、桑野満両氏に多大なるご協力をいただいた。

(註1) 『一般国道210号バイパス建設工事に伴う発掘調査概報』1991 大分県教育委員会

(註2) 註1と同じ



第1図 上野切畑山遺跡発掘調査位置図 (1/2,500)



1. 長者原遺跡
2. 穴観音古墳
3. 津辻古墳
4. ガランドヤ古墳群
5. 護願寺古墳群
6. 上野遺跡
7. 陣ヶ原遺跡
8. 姫塚古墳
9. 惣田塚古墳
10. 惣田遺跡
11. 大宮(手崎)遺跡
12. 東寺横穴群
13. 法恩寺古墳群
14. 北向古墳
15. 鳥羽塚古墳
16. 会所宮遺跡
17. 元宮原遺跡
18. 丸尾神社古墳
19. 薬師堂山古墳
20. 丸山古墳
21. 日隈古墳
22. 星隈山横穴群
23. 三郎丸古墳
24. 北友田横穴群
25. 吹上遺跡
26. 月隈山横穴群
27. 小迫墳墓群
28. 天満1,2号墳
29. 朝日宮ノ原遺跡
30. 小迫辻原遺跡
31. 草場第2遺跡
32. 後迫遺跡
33. 羽野横穴群
34. 夕田横穴群
35. 佐寺原遺跡
36. 中尾古墳群
37. 平島古墳
38. 平島遺跡

第2図 日田盆地の主要遺跡分布図

2 地理的歴史的環境

日田盆地は、耶馬溪溶岩や阿蘇溶岩によって形成された標高120～150mほどの台地が沖積地を囲み、さらにその周囲には、南に酒呑童子山をはじめとする津江山系、北に英彦山や岳滅鬼山、東に万年山を中心とする高い山々に連なっている。盆地中心部はこれらの山地部に水源を持つ多くの小河川が集合し沖積地を形成している。こうした地形を反映するかのように夏には盆地特有の高温多湿の気候となり、この時期には日本で最も気温が高くなることもしばしばある。

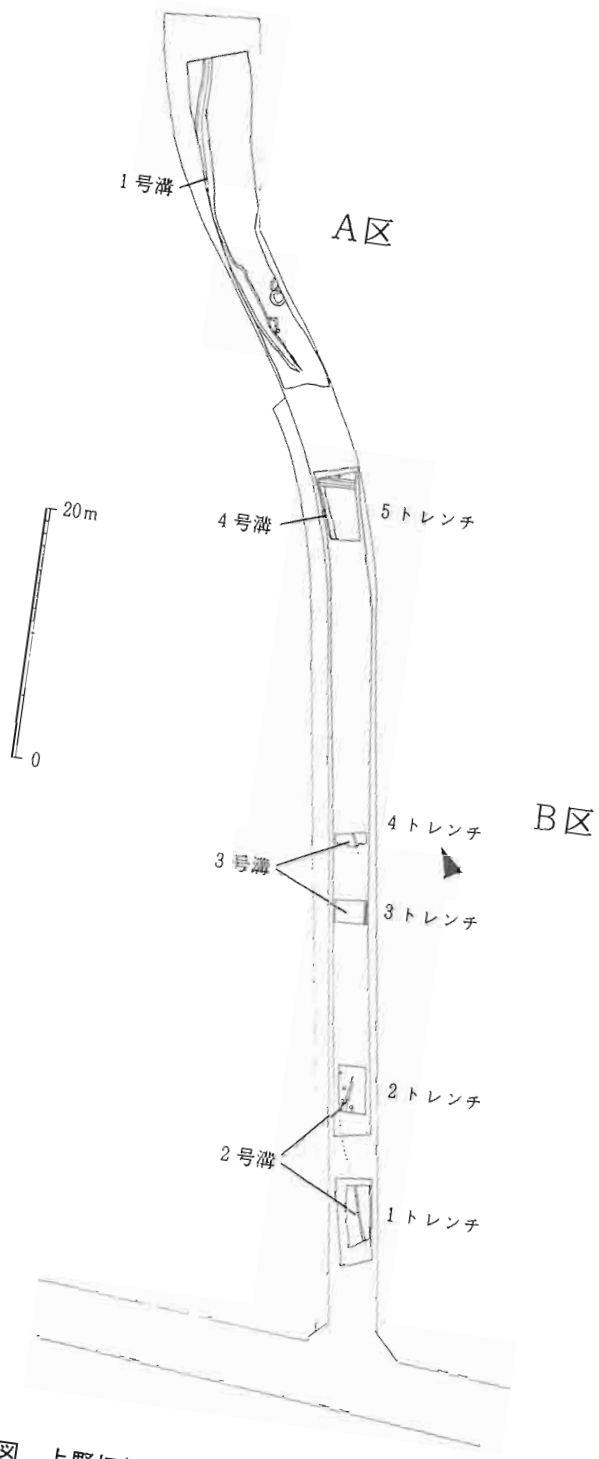
上野切畑山遺跡の存在する上野台地をはじめとする現市街地を取り巻く台地上には、最近の発掘調査により弥生や古墳時代を中心とする大規模な集落遺跡が確認されてきている。その中でも特に九州横断自動車道建設に伴って発掘調査された小迫辻原遺跡では、日本最古の豪族居館跡の存在が確認され、その後の継続調査によってさらに奈良時代の掘立柱建物群や中世の溝で囲まれた屋敷跡なども発見されている。(註1)

この切畑山遺跡のある上野台地でも、平成2年度の国道210号線バイパス建設に伴って行われた発掘調査で奈良時代の掘立柱建物跡や堅穴住居跡、土坑などが多く発見された。このうち掘立柱建物柱穴内からは、「豊馬」と読めそうな文字が縦2列に併記して線刻された石製品が出土し注目された。その遺跡は、発掘調査により堅穴住居跡の中から河川漁業に使用したと見られる石錘などが出土していることや、集落の立地や規模などから郡レベル程度の権力により設置された班田農民層の集落と考えられている。(註2)

また、この台地北西部では弥生時代の甕棺や石棺が発見されていて、この時期の集落の存在が考えられるほか、台地西部では前方後円墳1基を含む合計3基の謫願寺古墳群が存在している。

(註1) 『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』V1988 大分県教育委員会
『日田地区遺跡群発掘調査概報』V, VI 1990, 1991 日田市教育委員会
『小迫辻原遺跡発掘調査概報』1990 日田市教育委員会

(註2) 『一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』II1991
大分県教育委員会



第3図 上野切畑山遺跡調査区全体図 (1/600)

3 調査の内容

(1) 遺跡の概要

市道切畑美濃線道路改良工事予定区域約550㎡を対象に発掘調査を行った。調査区はすでに工事を終えていた暗渠より北側をA区とし、南側をB区とした。遺跡の位置は台地のほぼ中央部にあたっていたが、以下説明する遺構が存在していた。

(2) A区の調査

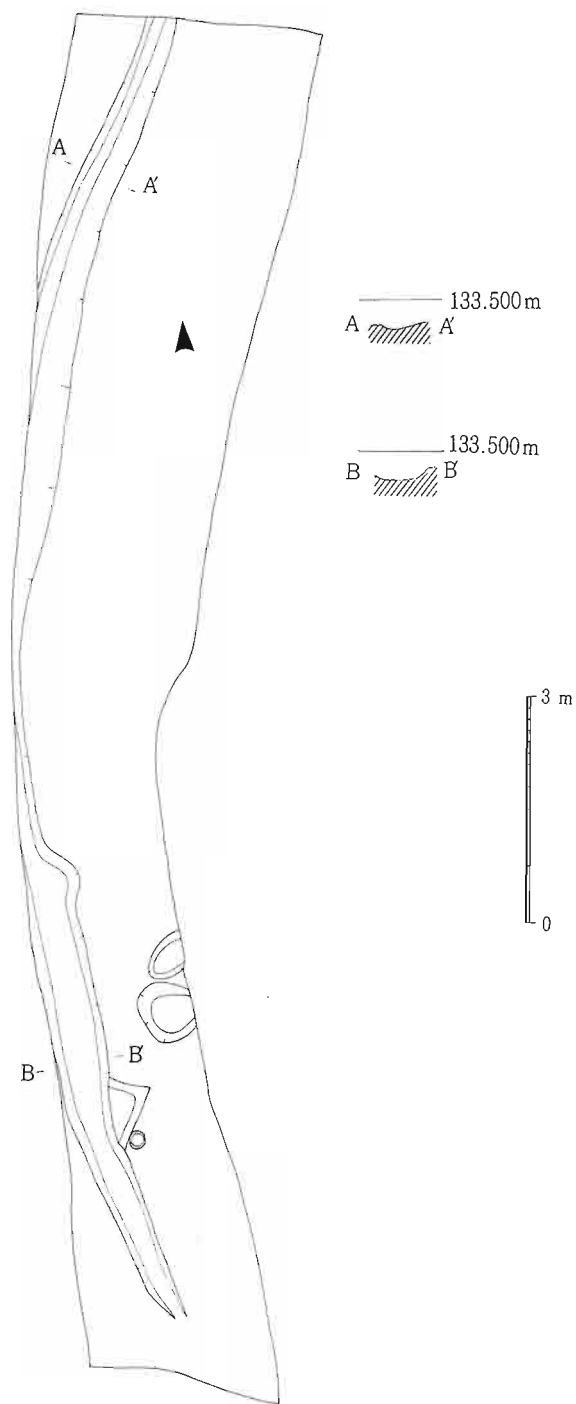
A区は、表土を東部で約30cm、西部で約50cm程度掘り下げると黄褐色の地山が現われた。ここでは溝1条、土坑2基、柱穴等が検出された。

1号溝は、調査区を南北に走る幅約50cm、深さ約30cm程度の溝である。この調査区西部は深い崖となっており、その方向に沿った形で溝も延びている。溝の内部からは、1点のみ甕の胴部片と見られる土器が出土したが流れ込みであり溝の時期は下るとおもわれる。

それ以外の土坑や柱穴等についても出土遺物はなく時期は不明である。



図版1 A区発掘調査作業風景



第4图 A区1号沟 (1/100)

(3) B区の調査

B区は道路建設予定地全体の調査を行う予定であったが、①表土除去後の調査区の両端（1、5トレンチ）では1mほどの深さで地山面が確認されたが、中央部では表土層と地山の間に中世の遺物等を含む層が存在し、ここまでの約1.5m以上の深さに達したこと、②調査が水田工作時期にあたり常に水が溜まった状態であり雨天が多かったことから、調査区の土手が壊れてしまい全体の調査を行うことが困難な状態となった。そこで中央部には3ヶ所のトレンチを設置し（2トレンチ、3トレンチ、4トレンチ）遺構の掘り下げを行うことにした。その結果、各トレンチで溝4条と2トレンチ、5トレンチで柱穴を確認した。

1トレンチ

トレンチ規模は約2×3.5mを測るが、このトレンチ東側で溝が検出された。（2号溝）断面は逆台形となるとおもわれ、ほぼまっすぐ南北に延びている。深さは10～20cmを測る。

2トレンチ

トレンチ規模は約2×3.8mを測る。このトレンチ南西コーナーより斜めに走るとぎれる溝と、これに切られたと見られる柱穴群が確認された。傾斜は南端と北端では約40cmあり、南から北にかけて急に下っているのがわかる。包含層もここから見られる。この包含層除去後、溝が検出された。溝の埋土は淡黒褐色で、匂含層は褐色であり、土層は明らかに異なる。この溝埋土中よりこの調査区中唯一実測可能な遺物が出土した。またこの溝は方向的に1トレンチの溝に続くとは推測される。これとは別の柱穴内部からの出土遺物はなかった。

3トレンチ

トレンチ規模は約2.6×2mを測る。このトレンチ東部端で南北に走ると推測される溝が検出された。（3号溝）この溝も断面逆台形とおもわれ、深さ約40～50cmを測る。溝内部からは少量の土器が出土したが時期は不明である。

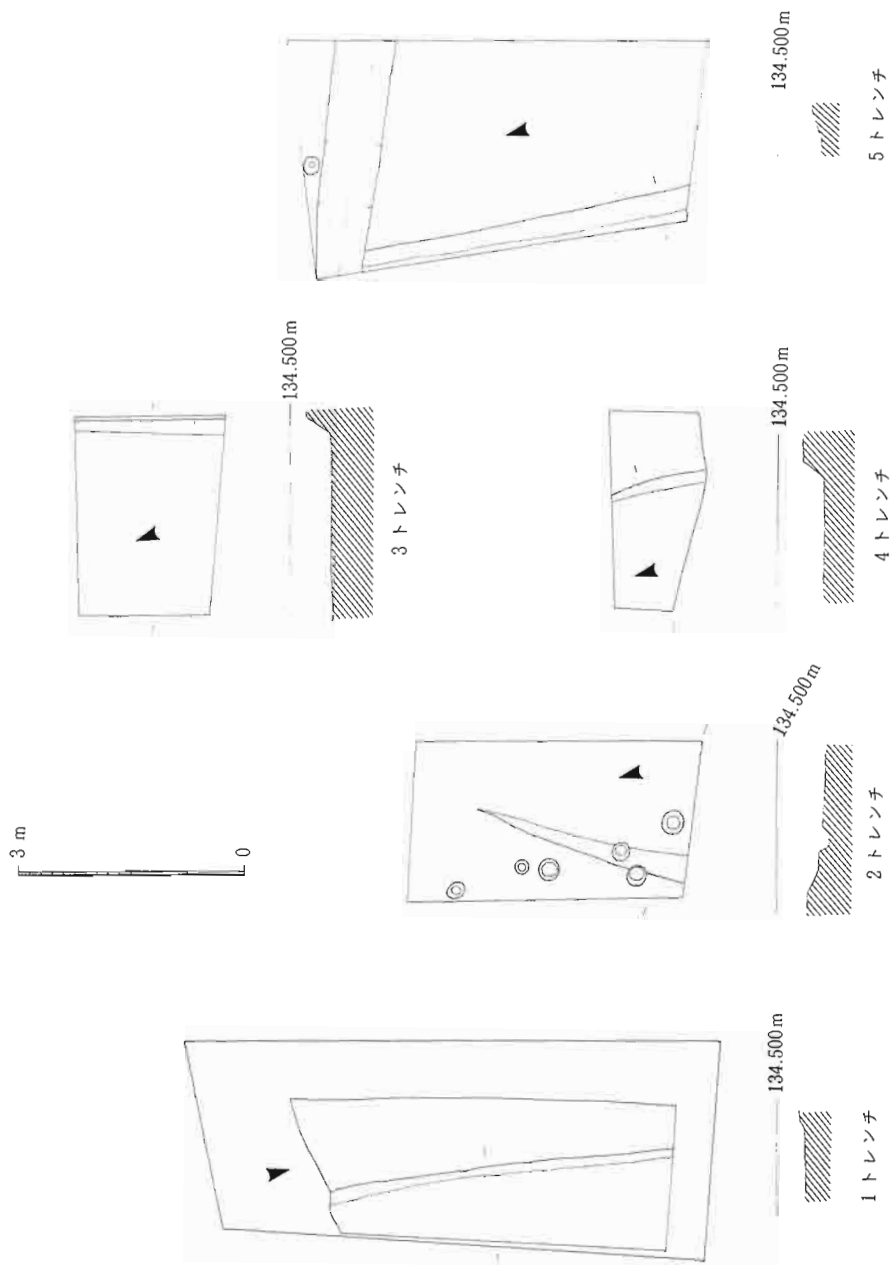
4トレンチ

トレンチ規模は約2.6×1mを測る。このトレンチ中央で、3トレンチ同様南北に走る溝を検出した。断面も3トレンチと似ており方向から3トレンチに続く溝と推測される。出土遺物はなかった。

5トレンチ

トレンチ規模は南側約2.2m、北側約3.2m×東側約5.6m、西側約5mを測る。このトレンチ西部で南北に走る溝（4号溝）と北部で東西に走る溝（現代溝）を検出した。また柱穴も1ヶ所確認した。4号溝は、断面が緩やかに傾斜する皿状を呈するとおもわれる。出土遺物はなかった。

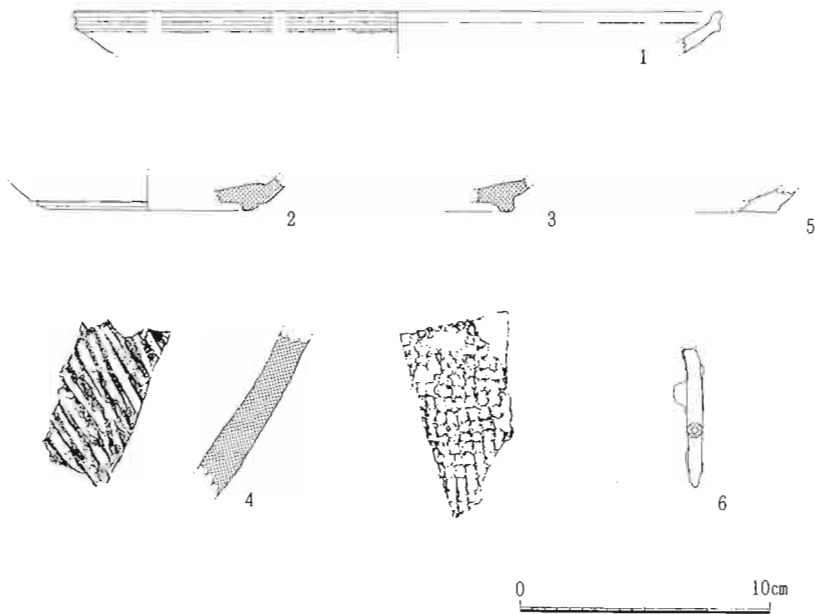
この1から5トレンチの間で確認された溝は、ここでは方向や形態から3条に分けたが、調査区方向に走る溝であり埋土の状況も似ているため、やや蛇行しながら1条の溝となることも考えられる。



第5図 B区トレンチ平面図断面図(1/100)

2号溝出土遺物（第6図）

1は、縄文時代晩期の浅鉢である。推定口径26.0cmを測る。口縁端部は直立し、間に一条の沈線が入る。色調は淡褐色、胎土は石英、角セン石、チョウ石を含む。2、3は奈良時代の高台付きの須恵器坏身である。2は推定底径8.8cmを測り、色調淡灰色を呈す。3も同様である。4は須恵器甕片である。外面格子状のタタキが入る。色調は淡灰色を呈す。5は中世の土師質土器小皿片である。底部は糸切り痕が見られる。6は鉄鍬基部である。残存長6.5cmを測る。断面は円形を呈する。



第6図 B区2トレンチ2号溝出土遺物（1／3）

4 まとめ

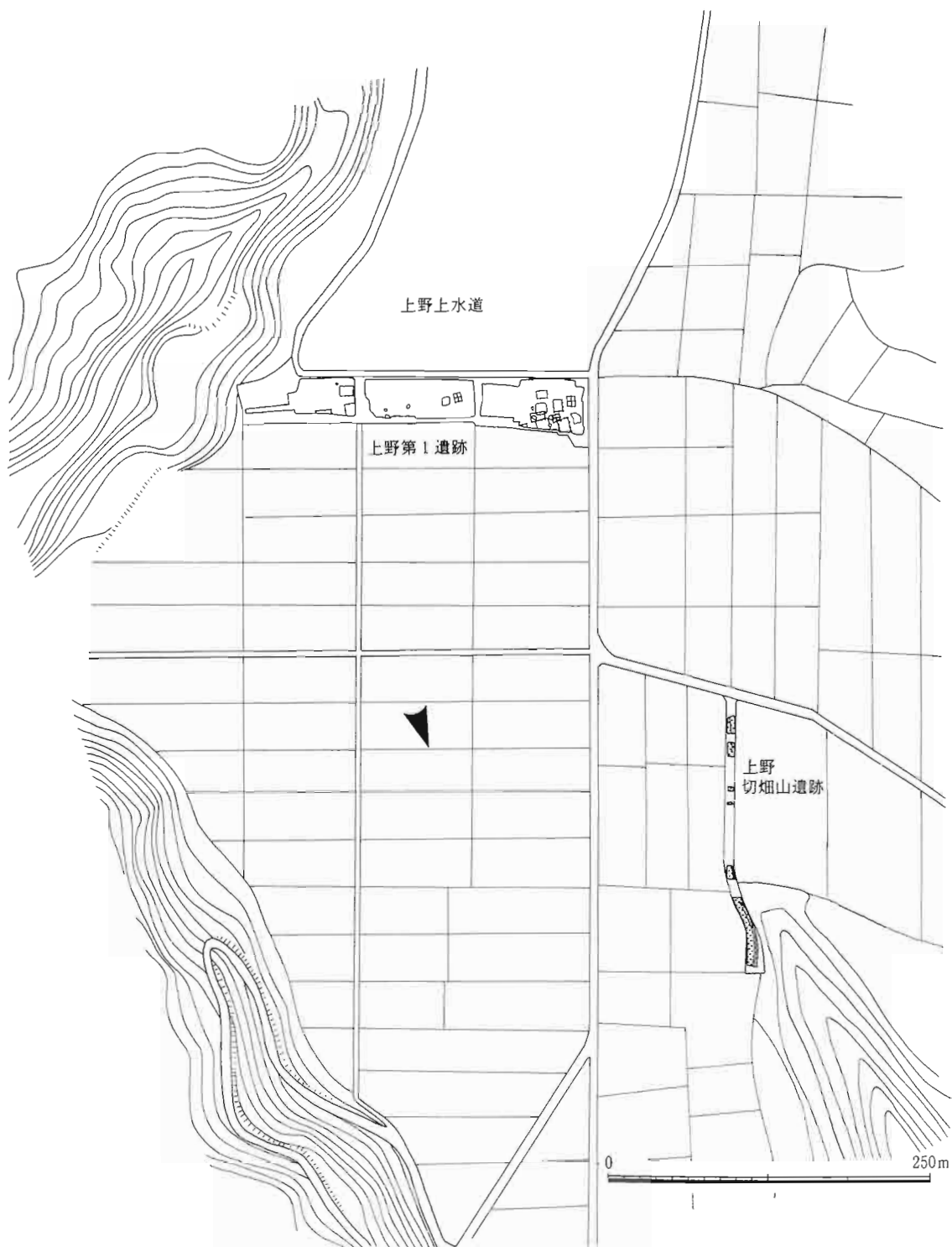
今回の調査では溝4条と柱穴等が発見された。とくにB区で検出された2号溝は断面逆台形をなししっかりしている。この溝の中からは奈良、中世の遺物が出土し、近世以後の遺物は見られないことからどちらかの時期に掘られた可能性が高い。さらに、この溝は2トレンチにおいて柱穴群より新しいことから溝と柱穴群との間に時期的な差が存在することも確認された。

ところでこれらの遺構との関わりとして注目されるのは、平成2年度に調査された上野第一遺跡が至近距離にあることである。(第7図参照)上野第一遺跡では、8世紀前半から中頃にかけての堅穴住居跡3軒や掘立柱建物跡11棟などが発見されており、今回の調査区からもその時期の遺物が出土し当該時期の遺構の広がりうかがわれる。また1点のみ出土した土師質土器は、上野第一遺跡においては発見されておらず、中世の遺構も台地上に存在していることが確認された。

調査が道路幅の範囲でしか行われず、したがって現時点で遺跡の全体像を考えるのは困難であるが、遺跡の範囲が台地南部から今回の調査が行われた中央部まで広がることは明らかとなった。この問題は今後この台地上での調査が増えるにつれ明らかになってくるとおもわれる。

(註1) 『一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅱ1991

大分県教育委員会



第7図 上野切畑山遺跡と上野第1遺跡位置図 (1/2,500)

圖 版



図版2 A区1号溝(北より)



図版3 A区1号溝(南より)



図版 4 B区作業風景



図版 5 B区全景（南より）



図版 6 B区1 トレンチ完掘状況（北より）



図版 7 B区2 トレンチ完掘状況（東より）



1



2



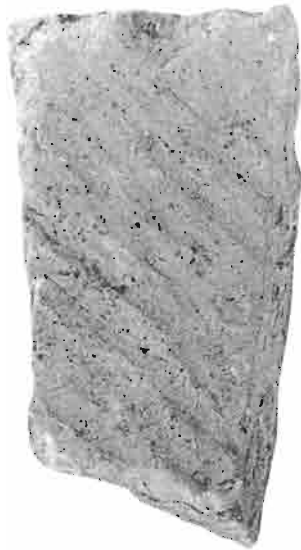
3



5



4



6

图版 8 B区 2号 沟出土 遗物

上野切畑山遺跡

日田市文化財調査報告書
第6集

1992年3月

発行 日田市教育委員会
日田市田島2-6-1

印刷 尾花印刷有限会社
日田市田島本町8-8

